

2015年度 事業別行政評価シート

部名	保健所	主管課名	保健予防課
----	-----	------	-------

歳出目名	保健予防費	特定事業名	母子健診事業	事業類型	4:その他型
------	-------	-------	--------	------	--------

I. 事業概要

事業目的	一人一人の子どもが健やかに生まれ成長するように、母子への健診や保健指導等を実施し、母子の健康の保持及び増進を図ることです。				
基本情報	根拠法令等	母子保健法			
	乳幼児健診実施回数	2013年度	2014年度	2015年度	乳幼児健診実施会場
		167	169	174	健康福祉会館、鶴川保健センター、ポプリホール鶴川、忠生保健センター、小山市民センター

II. 2014年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

◆限られた費用で事業の有効性をより高めるために、市民ニーズを的確に把握し、効率的な事業実施体制や方法を検討していく必要があります。
 ◆健診会場の一つである鶴川保健センターの改修工事を予定しており、必要備品の運搬等物件費の一時的な増加が見込まれますが、経費を最小限に抑え、健診が円滑に実施できるよう調整していく必要があります。

III. 事業の成果

成果指標名	単位	区分	2013年度	2014年度	2015年度	目標(達成時期)	成果指標の定義
3～4か月児健康診査受診率	%	目標	(96)	(96)	(96)	96 (2015年度)	3～4か月児が集団健診を受診した割合
		実績	94.1	97.3	97.6		
		目標					
		実績					
成果の説明	◆乳幼児健診会場として、健康福祉会館、鶴川保健センター、小山市民センターに加え、新たに忠生保健センターをオープンしました。 ◆2016年1月～12月の鶴川保健センターの大規模改修に伴い、工事期間中は和光大学ポプリホール鶴川で健診を実施しています。事前調整を十分に行ったことで、健診を円滑に実施することができました。 ◆3～4か月児健診では、未受診者に対する電話や手紙、訪問などでの受診勧奨により、受診率は微増しています。						

IV. 財務情報

① 行政コスト計算書

(単位:千円)

勘定科目	2013年度	2014年度 A	2015年度 B	差額 B-A	勘定科目	2013年度	2014年度 A	2015年度 B	差額 B-A
人件費	0	74,648	79,314	4,666	地方税	0	0	0	0
物件費	0	277,479	264,853	△ 12,626	国庫支出金	0	0	0	0
うち委託料	0	266,315	260,584	△ 5,731	都支出金	0	6,833	6,932	99
維持補修費	0	0	0	0	分担金及負担金	0	0	0	0
扶助費	0	0	0	0	使用料及手数料	0	0	0	0
補助費等	0	26,851	25,227	△ 1,624	その他	0	0	0	0
減価償却費	0	0	490	490	行政収入 小計(a)	0	6,833	6,932	99
不納欠損引当金繰入額	0	0	0	0	行政収支差額 (a)-(b)=(c)	0	△ 383,540	△ 375,117	8,423
賞与・退職手当引当金繰入額	0	11,395	12,165	770	金融収支差額 (d)	0	0	0	0
行政費用 小計 (b)	0	390,373	382,049	△ 8,324	通常収支差額 (c)+(d)=(e)	0	△ 383,540	△ 375,117	8,423
特別費用 (g)	0	0	0	0	特別収入 小計 (f)	0	0	0	0
特別収支差額 (f)-(g)=(h)	0	0	0	0	当期収支差額 (e)+(h)	0	△ 383,540	△ 375,117	8,423

② 行政コスト計算書の特徴的事項

勘定科目	物件費	勘定科目	補助費等
決算額の主な内訳	妊婦健康診査委託料 193,235千円 乳児健康診査(6・9か月児)委託料 37,531千円 1歳6か月児健康診査委託料 20,001千円 3歳児健康診査委託料 5,399千円など	決算額の主な内訳	妊婦健康診査助成費 14,703千円 1歳6か月児経過観察 2,588千円 3歳児経過観察 2,431千円など
主な増減理由	忠生保健センターでの健診実施準備が完了したことにより、備品購入費4,514千円の減少。妊婦健康診査受診者のべ数950件の減少等により、妊婦健康診査委託料4,328千円の減少。	主な増減理由	里帰り等妊婦健康診査助成金申請件数43件の減少等により、妊婦健康診査助成費1,701千円の減少。
勘定科目	人件費	勘定科目	都支出金
決算額の主な内訳	給料(常勤職員) 20,837千円 報酬(嘱託職員) 14,009千円 賃金(臨時職員) 17,670千円など	決算額の主な内訳	子育て推進交付金(3歳児健診) 6,724千円 子ども家庭支援包括補助(発達健診) 121千円など
主な増減理由	乳幼児健診実施回数の増加などにより、報酬7,300千円、賃金2,440千円の増加。忠生保健センターでの健診実施準備が完了したことにより、給料4,194千円減少。	主な増減理由	3歳児健診にかかる経費の増加により、子育て推進交付金155千円の増加。

③ 単位あたりコスト分析

※単位あたりコストは、各年度の「行政費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。

指標名	単位	年度	実績	単位あたりコスト	対前年度	単位あたりコストの増減理由
健診受診者 1人あたりコスト	人	2015	50,936	7,501	7	妊婦健康診査受診者数の減少などとともに、行政費用も減少し、単位あたりコストはほぼ横ばいです。
		2014	52,090	7,494		
		2013				
		2015				
		2014				
		2013				
		2015				
		2014				
		2013				

④貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目		2014年度末 A	2015年度末 B	差額 B-A	勘定科目	2014年度末 A	2015年度末 B	差額 B-A	
流動資産	未収金	0	0	0	流動負債	2,376	2,043	△ 333	
	不納欠損引当金	0	0	0	還付未済金	0	0	0	
	その他の流動資産	0	0	0	地方債	0	0	0	
固定資産	事業用資産	有形固定資産	0	0	0	賞与引当金	2,376	2,043	△ 333
		土地	0	0	0	その他の流動負債	0	0	0
		建物(取得価額)	0	0	0	固定負債	46,239	38,665	△ 7,574
		建物減価償却累計額	0	0	0	地方債	0	0	0
		工作物(取得価額)	0	0	0	退職手当引当金	46,239	38,665	△ 7,574
	工作物減価償却累計額	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0	
	無形固定資産	0	0	0	繰延収益	0	0	0	
	インフラ資産	有形固定資産	0	0	0	長期前受金	0	0	0
		土地	0	0	0	負債の部合計	48,615	40,708	△ 7,907
		工作物(取得価額)	0	0	0	純資産	△ 45,191	△ 37,774	7,417
工作物減価償却累計額		0	0	0					
無形固定資産	0	0	0						
建設仮勘定	0	0	0						
	その他の固定資産	3,424	2,934	△ 490	純資産の部合計	△ 45,191	△ 37,774	7,417	
	資産の部合計	3,424	2,934	△ 490	負債及び純資産の部合計	3,424	2,934	△ 490	

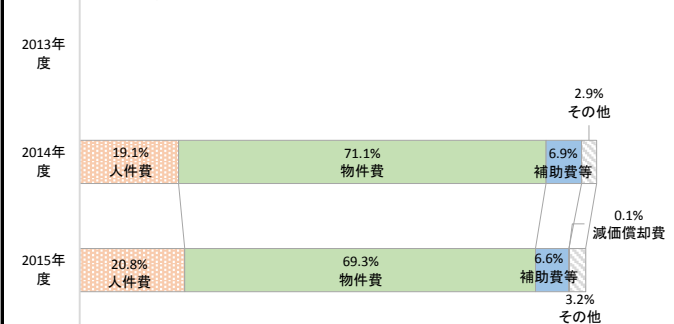
⑤貸借対照表の特徴的事項

勘定科目	その他の固定資産	勘定科目	その他の固定資産	勘定科目	その他の固定資産
決算額の主な内訳	歯科用ユニット(忠生保健センター) 2,934千円	決算額の主な内訳		決算額の主な内訳	
主な増減理由	減価償却のため490千円の減少。	主な増減理由		主な増減理由	

V.財務構造分析

VI.個別分析

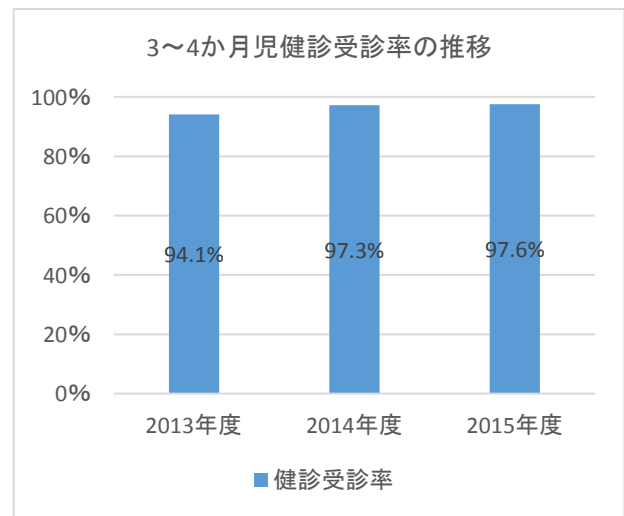
▽行政費用の性質別割合



▽事業に関わる人員

(単位:人)

業務内容	常勤	再任用 (フルタイム)	再任用 (短時間)	嘱託	臨時	2015		2014	
						合計	合計	合計	合計
母子健診事業	6.7			5.5	5.0	17.2	16.7		
						0.0	0.0		
						0.0	0.0		
						0.0	0.0		
2015年度 特定事業 合計	6.7	0.0	0.0	5.5	5.0	17.2	16.7		
2014年度 特定事業 合計	9.0	0.0	0.0	2.8	4.9	16.7			



VII.総括

①成果および財務の分析

- ◆医療機関への健康診査委託料や事業に従事する臨時職員等の人件費が費用の約9割を占めています。
- ◆2016年1月~12月の鶴川保健センターの大規模改修に伴い、和光大学ポプリホール鶴川で健診を行うための必要備品の運搬等により、物件費の増加がありました。経費を最小限に抑え、健診の円滑な実施ができました。

②2015年度末の「成果および財務の分析」を踏まえた事業の課題

- ◆母子の健康の保持及び更なる増進を図るために、健診受診者のニーズを反映し、健診を実施していく必要があります。
- ◆2017年4月より、改修後の鶴川保健センターの備品購入等物件費の一時的な増加が見込まれますが、経費を最小限に抑え、円滑に健診が実施できるよう調整していく必要があります。